

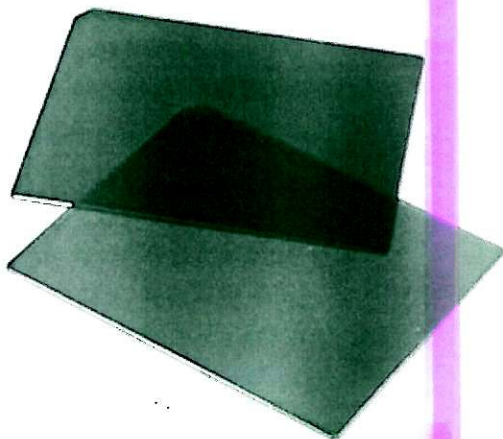
ニュースフラッシュ

る。ここ数年も、最大150t/時に達する多数の大容量・高性能バイオマスボイラーを、パルプ業界はもちろん、石油化学業界などへも立て続けに納入しており、ブラジル市場での信頼度は極めて高い。今回の受注はこれらの実績が高く評価されたという。なお、ブラジルはロシアに次ぐ世界2位の面積を持つ森林大国であり、高い森林生産率を誇り、紙の原料となるパルプの一大生産地となっている。

NECと東北大、新原理の熱電変換素子を開発 **エネルギーハーベスター**

NECと東北大学は、熱エネルギーを電力に変換する熱電変換素子で、スピンゼーベック効果によりシンプルな素子構造を実現するとともに、簡易な塗布プロセスを利用できるため、高効率な熱電変換が期待できる新しい素子を開発した。これにより、社会に広く存在する大量の廃熱を電気として有効利用できるとともに、廃熱からの発電を身近に利用できるようになる。

今回開発した熱電変換素子は、温度差から磁性体のスピンの流が発生す



熱電変換素子をコーティングしたガラス基板

る「スピンゼーベック効果」を利用して、シンプルな素子構造を実現し、従来に比べて製造工程が簡易となった。また、磁性体の形成に塗布プロセスを利用できるため、大面積化や曲面・凹凸面など様々な形状や材料の熱源上へのコーティングによる素子形成が可能となるため、これまで実現が難しかった利用シーンで熱電変換素子を適用し、廃熱を電気として無駄なく利用できるようになる。同素子は、家庭や工場、電子機器や自動車などの様々な発熱部分に設置できる。

従来から、廃熱からの発電できる熱電変換素子の利用は進められてきたが、素子の構造が複雑、大面積化が困難などの課題があり、利用が限られていた。

NECと東北大は、今後も熱電変換素子の実用化に向けて研究開発を進める。

サーチファーム・ジャパン、ヘッドハンティングへの問い合わせが増加 **環境エネルギー事業**

サーチファーム・ジャパン(株) (東京都千代田区麹町1-7、Tel.03-3221-3481)は、ヘッドハンティング(エグゼクティブサーチ)に関する企業からの問い合わせが2011年3月以降増加していることを明らかにした。企業が優秀な人材を獲得する採用手法として、ヘッドハンティングへの関心が高まっているという。

12年3月期の問い合わせ件数は前年同期比1.4倍となった

が、さらに12年6月期には同約2倍になる見通し。国籍別では国内資本企業からの問い合わせが全体の8割、韓国、中国などアジアを中心とした外国資本企業からが2割となった。また業種別では、製造業が28%、情報通信が17%と全体の約半数を占めるものの、専門・技術サービス業、卸売り・小売業、医療・福祉、金融・保険業、建設業など多岐にわたる企業が利用を検討しているという。

問い合わせの内容は、既存事業強化や事業再編のための人材スカウトをはじめ、中国進出プロジェクトの責任者、海外M&A事業を加速するための専門家など海外事業展開に関する依頼や、スマートフォン新規事業の責任者、太陽光発電事業立ち上げ責任者など、新規事業立ち上げに関する依頼が目立つという。

同社では今後ヘッドハンティングの需要がさらに高まるとみており、13年3月までにグループ全体の社員数を1.5倍に増員していく。